



# 菅章哉

私を揺さぶる、グランプリ。12月16日からボートレース住之江で開幕する1年の総決戦、SG「第40回グランプリ」に向けた特別企画。「Road to THE GRAND PRIX」キャンペーン」と題した企画の第5弾として、菅章哉（37＝徳島）に焦点を当てた。劣等生から這い上がった人気レーサーは大舞台に憧れの感情を抱いていた。  
（取材日＝11月22日）



# GPはぐ褒美

## 4月G1初制覇

菅章哉にとって、グランプリは1年間、SG、G1戦線に居続けた「褒美だ」という。だからこそ、緊張感よりも楽しみが勝る。「ワクワクでしかないですよ（笑）」。「勝ち負けはもちろんだ。舟券を買ってくれるファンの気持ちも理解している。しかし、人生において、これほどの高揚感を得られる機会は、そうはない。「小さいことにとらわれず、その一節間の空気を味わえることが、自分の人生の財産になる。そこで新しい発見があると思うし、緊張している時間があったくない」。賞金ベスト18に入った達成感よりも、憧れに近い感情を抱くには理由がある。

やまと学校（現ボートレーサー養成所）では、訓練に付いていくのが精いっぱいだった。デビュー後「3年でA級」を目標に掲げていたが、本意ではなかった。「実際、デビューしてから6ヶ月、やくちや下手だった。周囲に合わせて、目標を言っていたけど、正直、クビ（代謝）にならないようにするの必死でした。やる気はあったけど、効果的な練習のやり方が分からなかった」。先輩レーサーからも見放され、つらい時期を送った。そんな中、新聞文夫（引退）、近藤稔也の2人に声をかけられ、アドバイスをもらった。そのおかげで引退危機から脱し、レーサー人生が好転した。初めてA級に昇格したのは14年1月。09年11月のデビュー

## めっちゃくちや下手でした

## 正直、クビにならないように

## するの必死でした



自己紹介	
名前	菅章哉
生年月日	昭和の最後の子
自分の性格	愛蔵家
趣味	少年野球の星宮
特技	伸びが早い
得意な決め手	マゲル差
好きな色	黄色
好きな食べ物	母の手料理
ひと言	真理恵の愛いっしょ！

## 菅選手直筆手紙

本格的にGPを意識したのは、今年が初めてだ。若い頃に「賞金王を取るために生まれてきた」と口にしたこともあったが、ファンサーの第一環に過ぎなかった。その言動が先輩の心に響き、怒られたこともあったという。しかし、今なら誰も文句は言わない。今年G12勝。クラシック、オールスター、メモリアル、チャレンジャーカップと4つのSGに出場した。23年9月、G1から7周年の優勝戦でフライングを切り、罰則により、昨年はG1を走れなかった。そんなアクシデントも乗り越え、4月の津周年で、予選トップを獲得し、G1初制覇を果たした。

「G1優勝、優勝5回、適用勝率7点、SG優出、SG優勝の5つが今年の目標でした。その半分くらいは、かなえることができました。リアルな目標設定をして、それに向かって、やるべきことをやってきました」。課題だったムラッぽさは解消しつつある。チルト3度の伸び型スタイルは、スタート事故と隣り合わせだったが、24年8月を最後にフライングも切っていない。かつての劣等生は、もうどこにもいない。

## リアル目標設定

最近、自らに課されたオッズ、そして、ファンの対応を見て感じることもある。「人気を裏切って、6着でピットに戻っても、ファンの方がめっちゃくちや、手を振ってくれている。1着を目指して走っているけど、自分の勝ち負けは、特別に重要なものではないんだと。チルト3度にして、展示に出ると、お客さんが沸いてくれる。そんな準備と意思表示をすることが、ファンに対しての恩返しなんだと思っています」。菅がいるGP。それはボート界にとっても、ワクワクでしかない。

## 菅章哉 私のグランプリ

枠番	選手名
1	西山 貴浩
2	峰 竜太
3	近藤 稔也
4	櫻葉 次郎
5	菅 章哉
6	西島 義則

## ↑菅選手が考える優勝戦メンバー↑



菅選手が考える優勝戦メンバーは、西山、峰、近藤、櫻葉、菅、西島。菅選手は、このメンバーで優勝したいと考えている。菅選手は、このメンバーで優勝したいと考えている。菅選手は、このメンバーで優勝したいと考えている。